

エンジニアリング部



▲設備外観

2020年10月よりプラント工事が着工し、2021年3月末に完成。4月から約2カ月間の試運転が行われ、クラボウランシステムの協力もあり、納期遅延もなく無事故無災害で工事を終えることができました。また、今回は設計ツールとして3D CADを初めて導入し、2D図面では確認できなかつた

エンジニアリング部では、「知多」等のウイスキーの原酒を製造するサントリー知多蒸溜所株式会社に納入したバイオマスボイラ設備が、本年7月より本格的に稼働を開始しました。

本設備は、ウイスキー製造工場で発生するコーン粕および濃縮液といった穀物由来のバイオマス燃料を当部が長年培ってきた技術である流動層焼却炉にて燃焼させ、燃焼排ガスを熱源に

ボイラで蒸気を回収し、ウイスキー製造工程で使用するサーマルリサイクル設備です。設備導入により従来のガス焚きボイラの使用が抑えられ、省エネエネルギー化に大きく貢献することができます。

また、既存1号機は都市ガス等を消費するガス焚きバーナの併用が必要なシステムでしたが、当部では全体プロセスの最適化を考え（下図）、排ガスを熱源とした熱交換器を導入し、化石燃料を必要としないシステム提案を行いました。高効率かつ省エネルギー化設備としての評価を頂き、当社バイオマスボイラ設備が採用されました。

2020年10月よりプラント工事が着工し、2021年3月末に完成。4月から約2カ月間の試運転が行われ、クラボウランシステムの協力もあり、納期遅延もなく無事故無災害で工事を終えることができました。

食品由来廃棄物を使用したバイオマスボイラ設備 本格稼働

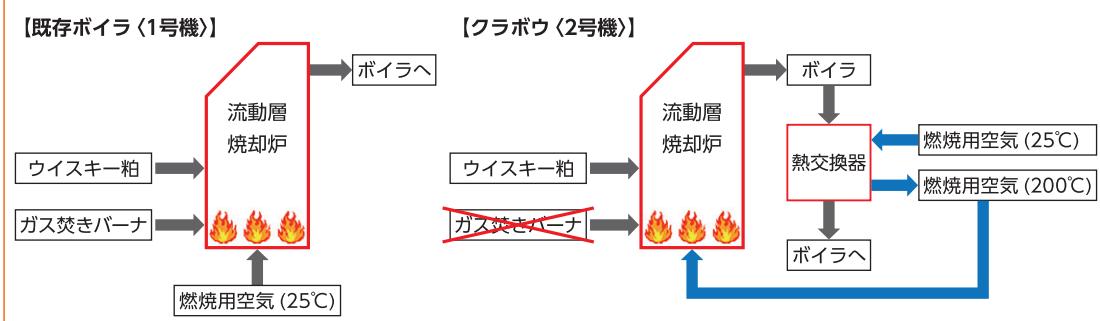


▲3D-CAD上の外観

機器同士の干渉等を事前に確認、対処することができました。結果として工事の出戻り作業が少くなり、今までの工事と比較して追加工事を減少させることができました。

本案件により、新たにウイスキー粕の燃焼実績ができたことから、今後は他の食品由来廃棄物ボイラの拡販につなげていきたいと思います。

（環境エネルギー課
林 幸生 記）





▲ ラピッドフィールズ S+N IgG

新型コロナウイルス免疫獲得調査のサポートにより世の中に安心を

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続いている。国が進めているワクチン接種は、新型コロナウイルスに対する「免疫」を得るためのもので、個人の発症や重症化を予防するだけでなく、社会全体の流行を防ぐことが期待されています。

しかし、ワクチンの有効性や安全性については、不安の声もあがっています。そのような状況下で、バイオメディカル部では、昨年3月より販売してきた抗体検査試薬キットの改良を進めていました。

抗体とは、体内にウイルスなどの異物が侵入した際に体内で産生されるタンパク質で、侵入した異物と特異的に結合し、体内から異物を排除しようとする働きをするのです。抗体は、感染症を罹患した際に体内で產生されますが、予防手段であるワクチンを接種した際にも抗体が產生されます。

現在、公的接種に使用されるワクチンはmRNAワクチンと呼ばれるもので、接種すると体内で抗Sタンパク抗体が产生されます。本製品ではワクチン接種後に產生される抗Sタンパク質抗体と、実際に感染した後に產生される抗Nタンパク抗体を同時に検出可能であることが特長です。

め、7月13日より課題解決ための新製品「ラピッドフィールズ」の販売を開始しました。キットに少量の血液と試薬を垂らすと、抗体ができている場合には15分で線が浮き出ます。

抗体とは、体内にウイルスなどの異物が侵入した際に体内で産生されるタンパク質で、侵入した異物と特異的に結合し、体内から異物を排除しようとする働きをするのです。抗体は、

人の新型コロナウイルスへの感染者が報告される中、1回目のワクチン接種が国民の約4割しか完了しておらず、先行きに対する不安は増すばかりです。

われわれの製品を通じて、新型コロナウイルスに関する研究がスピーディーかつより良い方向に発展し、早く世の中がコロナ禍以前の生活に復帰できるよう期待しております。

今回ご紹介した新型コロナウイルス関連製品の開発・販売にとどまらず、医療機関や医薬品卸業者・ドラッグストアチェーンとのコネクションを最大限に生かし、より一層「強いメーカー」となるべく事業拡大に努めてまいります。

(東京支社 バイオ営業課
松本 勇樹 記)

